

2026 年度（一社）愛媛県臨床工学技士会 第 2 回理事会 議事録

1. 開催日時：2026 年 8 月 22 日（土）18：20～21：10
2. 開催場所：四国がんセンター 地域医療連携研修センター会議室
3. 出席者
理 事：青野宏樹 宇都宮卓治 岡田未奈（20：15 途中退席） 小野達也 川上千晶 清水俊行 永渕克弥
久枝正実 野村祐介 宮崎昌彦 山本良輔 渡部優作（五十音順）
監 事：氏家昌樹 成高慎祐

4. 議事

- 1) 開会の挨拶
清水会長より、第 2 回理事会開催の挨拶があった。

- 2) 書記の選出
清水会長より野村事務局長が書記に選出された。

3) 報告事項

- (1) 塩崎彰久衆議院議員事務所訪問／8 月 9 日の報告

清水会長から、8 月 9 日に塩崎彰久議員事務所を訪問し、清水会長、小野副会長、宮崎理事、渡部理事の 4 名で約 30 分間面談したことが報告された。初回訪問であったため具体的な陳情は行わず、議員連盟加入への謝意を伝えるとともに、臨床工学技士の職種紹介や現状の課題について資料を用いて説明した。塩崎議員からは、松山市内をはじめとする選挙区内の会員数や、今後どのような勉強会・連携が可能かについて関心が示されたことが報告された。今後は、今回構築した関係をどのように継続的な連携につなげていくか検討する必要があるとの見解が示された。

小野副会長からは、塩崎議員が参加者の勤務施設など地元との関係を強く意識していたことから、今後の議員訪問では当該選挙区に勤務・居住する会員が同行することが効果的ではないかとの意見があった。また、過去の日本臨床工学技士連盟の選挙活動において愛媛県の協力実績が全国的にも高かったことを説明した際に強い関心が示されたことから、県内会員数や組織としての協力・行動力を具体的な数字で示すことが重要との所感が述べられた。

渡部・宮崎理事からは、議員側にとっても技士会側にとってもメリットのある、いわゆる Win-Win の関係を築いていく必要があるとの意見があった。また、医師会・薬剤師会等の他職種団体と比較すると、政治・行政への働きかけや職能活動には大きな差があると感じたことが述べられ、臨床工学技士会としても自らできる活動を積極的に進めていく必要があるとの見解が示された。

9 月 6 日には長谷川淳二衆議院議員の宇和島事務所を訪問する予定であり、地元である宇都宮理事も同行し、清水会長、小野副会長、宮崎理事、渡部理事、宇都宮理事の 5 名で面会することとなった。両議員との関係を今後どのように活用し、臨床工学技士の職能・社会的役割の向上につなげるかについて、引き続き検討することとなった。

- (2) 告示研修（熊本開催）について

清水会長より、9 月 19 日・20 日に熊本県で開催予定の告示研修について情報共有があった。会場であるグランメッセ熊本は地震災害に伴う支援物資拠点として使用されており、8 月末まで使用できない状況であることから、支援物資拠点としての利用が 9 月以降も延長された場合は研修を延期する可能性がある旨、日本臨床工学技士会から連絡があった。現時点では開催する方向で準備が進められており、最終的な開催可否は熊本県臨床工学技士会と日本臨床工学技士会で協議の上決定される。

延期となった場合の受講者の宿泊・交通等のキャンセル料については、日本臨床工学技士会では負担しない方針であることが共有された。

- (3) 事務局報告／新入会員および新規事務局員について

野村事務局長より、新入会員 5 名について報告があり、入会が承認された。退会者および所属変更者はいなかった。

新たな事務局員に住友別子病院の谷口 雄登 氏を加えることが提案され、承認された。今後、事務局内で連携して業務を進めることとなった。

- (4) 血液浄化委員会セミナーについて

山本理事より、11 月 19 日（木）に Web セミナーを開催する予定であることが報告された。また、今年度予定していた香川県との合同セミナーが見送りとなったことを受け、当会血液浄化委員会として新たにセミナーを企画し、2027 年 2 月 28 日（日）を候補日としてハイブリッド開催を予定していることが説明された。ハイブリッド配信機材については、事前に借用しリハーサルを行った上で活用することとなった。

- (5) 呼吸療法委員会セミナーについて

青野理事より、2027 年 2 月 21 日（日）を候補日として、現地開催による呼吸療法セミナーを企画していることが報告された。講義に加えて実際に呼吸器に触れるハンズオン形式を予定し、血液ガスや人工呼吸器の

基礎から臨床で活用できる内容までを検討している。会場は四国医療技術専門学校を予定しているが、駐車場確保が課題であり、今後調整を進めることとなった。講師についても候補者と調整中である。

(6) 第8次愛媛県地域保健医療計画について

清水会長より、日本臨床工学技士会から各都道府県技士会に対し、第8次医療計画の中間見直しにあわせて臨床工学技士の明記や活用について行政へ働きかけるよう依頼があったことが共有された。愛媛県の医療計画では臨床工学技士に関する記載が限定的であることから、県立中央病院の久枝理事を通じて県担当部署への情報収集を行ったが、現時点では中間見直しで大幅な修正を行う予定はないとの回答であった。

今後の働きかけとして、透析分野における災害対策では愛媛人工透析研究会等と連携している実績があり、臨床工学技士の役割を示す余地があること、在宅医療分野についても専門性を訴えることができるのではないかと意見があった。また、医療計画に職種・団体が明記されることで、県施策や研修、設備整備等の予算化につながる可能性があるとの意見が示された。

中間見直しでの反映は容易ではないことから、次期医療計画も見据え、策定に関わる会議体・関係者を把握するとともに、災害対策等の具体的実績や必要性を示す資料を早期に整備する必要があるとの意見で一致した。災害対策関係者、愛媛県医師会、県職員、県議会議員等との接点を活用し、継続的に情報収集・働きかけを行うこととなった。

(7) 医療安全委員会の設置に向けて

清水会長より、第9期の新体制において医療安全委員会を新設する方針が改めて示された。川上理事を中心に、医療安全に関心がある者や実務に携わっている者を4〜5名程度募り、委員会の組織化と活動内容の検討を進めることとなった。

4) 検討審議事項

(1) 中四国臨床工学会高知大会の座長選出について

岡田副会長より、12月開催の中四国臨床工学会高知大会について、愛媛県から血液浄化、カテーテル・不整脈等の循環器領域、医療安全の3部門で座長を選出するよう依頼があった旨説明があった。協議の結果、医療安全部門は川上理事、血液浄化部門は山本理事、循環器部門は永淵理事を派遣することとなった。

(2) 役員活動の見える化について

清水会長および宮崎理事より、役員活動報告書の試案について説明があった。記載量には個人差があるため、会員が読みやすいよう簡潔にまとめつつ、担当理事として実施した活動、理事会等への出席、対外活動、会長等から依頼された業務、理事会への提案やその成果等を記載する方向性が示された。

まずは各理事・監事が上半期分の活動報告書を作成し、次回理事会までに役員間で共有することとなった。実際に作成する中で生じた疑問や改善点を集約し、記載ルールや公開方法を今後整理する。

(3) 名誉会員 田邊芳郎氏の任期について

清水会長より、田邊芳郎氏の名誉会員としての任期について協議が行われた。協議の結果、田邊氏本人の意向も踏まえ、清水会長の会長職在任期間中と定める方針となり満場一致で承認された。

(4) 第12回愛媛県臨床工学会・定時社員総会の日程および会場について

清水会長より、定款上、定時社員総会は事業年度終了後3か月以内に開催する必要があるため、学会・総会は2027年4月〜6月に開催する必要があることが説明された。関連学会の日程や事務局の会計処理期間、学会長の都合等を踏まえて協議した結果、2027年6月6日（日）に開催する方針が承認された。

小野副会長より、学会長経験者として、会場を病院施設とするのではなく、外部会場を借りて開催することで、会場との調整や準備・運営上の対応など、学会運営に必要な様々な経験を得ることができるとの意見があった。今後の会場選定にあたっては、学会長の経験につながる点も考慮して検討することとなった。会場は松山市周辺を基本として、永淵学会長と相談の上選定する。会場選定にあたっては、学会長が会場との調整等も含めて運営経験を積めることや、学会長が実現したい企画内容も考慮して検討することとなった。

(5) 啓発グッズの使用用途について

渡部理事より、当会が保有するクリアファイル、缶バッジ等の啓発グッズを、臨床工学技士の認知度向上に有効活用する方法について提案があった。主な対象は今後進路を考える小・中・高校生とし、病院祭や職業体験等で臨床工学技士が直接説明しながら配布することが有効ではないかとの意見があった。

まずトライアルとして、済生会今治病院および済生会西条病院のイベント等で各50部程度を無償提供し、使用状況や反応をフィードバックしてもらうこととなった。今後は県内施設から申請を受けて配布できる仕組みも検討する。基本方針として、小・中・高校生への啓発目的では無償提供とし、養成校の学生への提供は原価での有償対応とすることが確認された。

(6) 愛媛県・香川県合同VAハンズオンセミナーについて

山本理事より、香川県側の理事会で検討した結果、「合同開催に反対しているわけではない」としながらも今年度の開催は見送るとの回答があったことが報告された。香川県側からは、今後実施する場合には費用負担、収支、講師選定、開催方法等について両県共通のルールを事前に定めた上で進めたいとの提案があり、

両県三役での協議も提案されている。

これまで実務担当者間で複数回協議し、愛媛県側から費用・収支の分担方法等について複数案を提示してきた経緯から、再度詳細なルール作りを行うことには相当な労力を要し、現状では合同開催の実現は難しいとの意見が多く出された。

協議の結果、当会としては香川県と合同セミナー開催は困難との認識を香川県事務局へ伝えることとし、その上で香川県側から三役協議の具体的な要望がある場合には協議に応じる方針とした。野村事務局長から香川県事務局へ連絡する。

(7) 日本血液浄化技術学会 VA 管理実態調査アンケートの配布について

野村事務局長より、日本血液浄化技術学会（JSTB）VA 管理検討委員会・VA 管理観測事業ワーキンググループからアンケートの協力について連絡があった旨説明があった。

調査内容は当会会員の業務と関連が深く、依頼元も関係のある学術団体であることから、当会ホームページへの掲載および施設代表者メーリングリストで周知することが承認された。今後、他団体から同様のアンケート依頼があった場合は、依頼元、内容、対象等を確認し、必要に応じて都度判断することとした。

(8) 各種書類等の雛形について

校閲部より、各委員会・部会における文書作成の負担軽減と書式統一を目的として、セミナー趣意書、学会趣意書、講演依頼書、支払明細書の4種類の雛形を作成したことが報告された。変更が必要な箇所を分かりやすく示し、各企画の内容に応じて編集できる形式としている。

まずは各担当理事から委員会・部会へ共有し、今年度のセミナー等で試用することが承認された。使用中で表現や項目等に改善点があった場合は校閲部へフィードバックし、順次ブラッシュアップする。現時点ではホームページ等で一般公開せず、役員・委員会内で運用する。

(9) その他

宮崎理事より、日本臨床工学技士連盟の中四国ブロック内で各県担当者の連携が十分でないことから、各県の連盟担当者を明確にし、中四国臨床工学技士会連絡協議会内での組織化を検討している旨報告があった。

また、委員会議事録や各種書類、過去の活動資料等を継続的に保存・共有できるクラウド環境について検討する提案があった。Google ドライブ、NAS、各種クラウドサービス等が候補として挙げられ、費用、容量、アクセス権限、引継ぎのしやすさ等を比較する必要があることから、候補サービスを調査し、次回理事会で継続審議することとなった。

川上理事より、組織委員会のブロック活動について進捗報告があり、各地域で交流企画の準備を進めていること、内視鏡委員会については9月1日に第1回委員会を開催予定であることが共有された。

清水会長より日本臨床工学技士会の業務実態報告について、今年度は入力システムの事前確認を行った上で10月中旬頃から一般会員向けに開始される見込みとの情報が共有され、各ブロックでも回答促進に協力することとなった。

5) 次回理事会日程調整

日時：2026年11月7日（土）18：30～ 場所：四国がんセンター地域医療連携研修センター

6) 議事録確認

出席理事

清水俊行	小野達也	岡田未奈	野村祐介	青野宏樹	宇都宮卓治
川上千晶	永渕克弘	久枝正実	宮崎昌彦	山本良輔	渡部優作

出席監事

氏家昌樹	成高慎祐
------	------

7) 閉会挨拶

野村事務局長より、理事会閉会の挨拶があった。